

小麦の生育後期追肥による容積重・蛋白含量の向上と粉色への影響				
<p>【要約】「農林61号」と「ふくさやか」の容積重は、<u>出穂後10日追肥</u>で向上し、千粒重が大きいと重くなる傾向が見られるものの、年次変動が大きい。蛋白含量は、出穂後10日に窒素4kg/10a施用することで、<u>9.5%以上</u>に高めることが可能であり、「農林61号」では<u>小麦粉の粉色</u>が低下するが、「ふくさやか」では低下しにくい。</p>				
栽培研究部・作物担当		「実施期間」 平成11年度～17年度		
【部会】農産	【分野】高品質化技術	【予算区分】委託	【成果分類】	指導

【背景・ねらい】

実需者が求める高品質麦生産を促進する観点から、銘柄・ランク区分の見直しが行われ、平成17年産麦から容積重、蛋白含量、灰分、フォーリングナンバーの4項目の品質結果を反映した助成金体系へ移行されている。このうち、容積重は833g/L以上、蛋白含量は9.5～11.5%という基準値（日本めん用）が設定され、この基準を満たす高品質麦の生産が課題となっている。ただし、一般的に蛋白含量が高くなるほど小麦粉の粉色が低下する傾向があり、粉色の悪い小麦は実需者から敬遠される。そこで、「農林61号」と「ふくさやか」を用いて、生育後期の追肥が容積重、蛋白含量および小麦粉の粉色に与える影響を検討した。

【成果の内容・特徴】

「農林61号」と「ふくさやか」の容積重は、出穂前7日追肥よりも出穂後10日追肥で向上する。容積重の基準値（833g/L以上）を達成するためには、出穂後10日追肥を4kgN/10a程度施用する必要があると考えられるが、年次によっては基準値を下回る場合もある（図1）。また、容積重は、年次変動があるものの千粒重が大きいと重くなる傾向が見られる（図2）。

「農林61号」と「ふくさやか」の蛋白含量は、出穂後10日に4kgN/10a施用することで基準値（9.5～11.5%）に達する。この場合、「農林61号」では小麦粉の粉色が低下するが、「ふくさやか」では低下しにくい（図3）。

【成果の活用面・留意点】

容積重の向上および適正な子実蛋白含量確保のための参考資料とする。

圃場の乾湿に合わせた排水対策をしっかりと実施し、充実の良い大粒麦の生産を行うことが重要である。

[具体的データ]

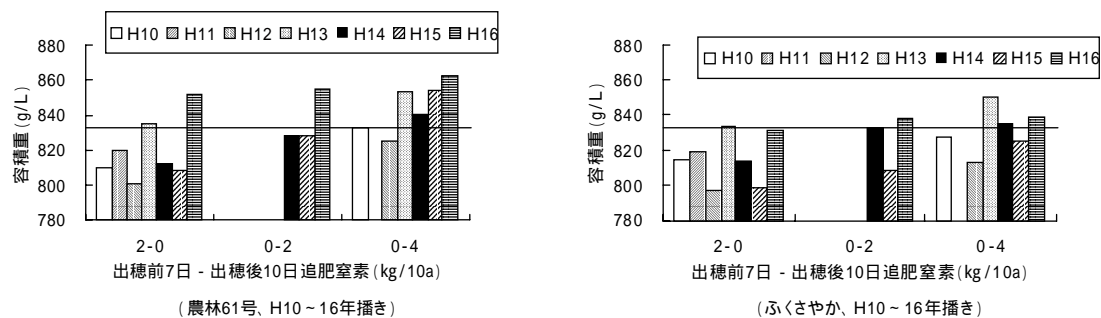


図 1 生育後期の追肥と容積重

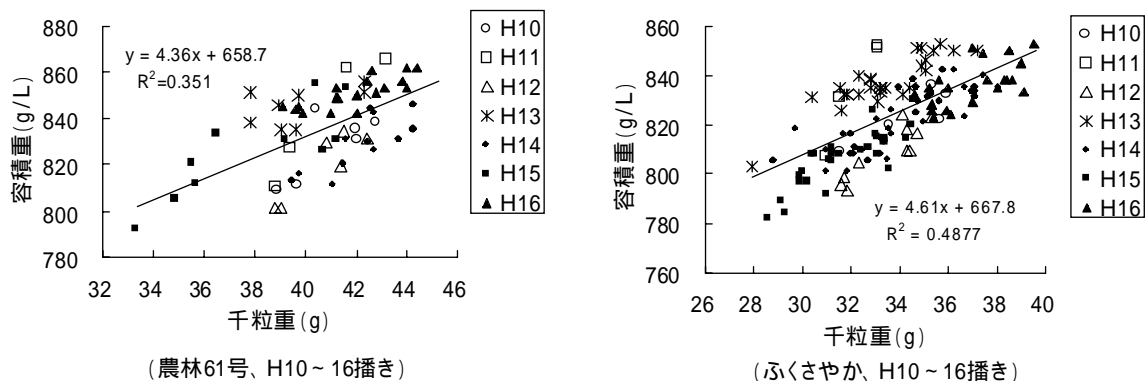


図 2 千粒重と容積重の関係

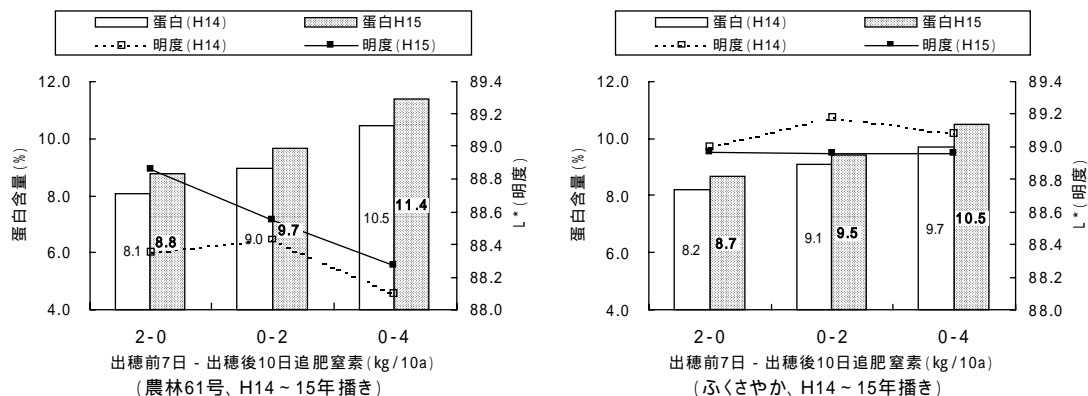


図 3 生育後期の追肥と蛋白含量、粉色（明度）

[その他]

・ 研究課題名

大課題名：消費者等の多様なニーズに応える高品質・高付加価値化技術の開発

中課題名：安全・安心・高品質な農畜産物の生産技術の開発

小課題名：水稻・麦類・大豆品種改良および栽培試験

・ 研究担当者名

河村政彦 (H15 ~ 17)、鳥塚智 (H11 ~ 14)、中山孝彦 (H16 ~ 17)、吉岡ゆう (H12 ~ 15)
北浦裕之 (H11)

・ その他特記事項

なし